

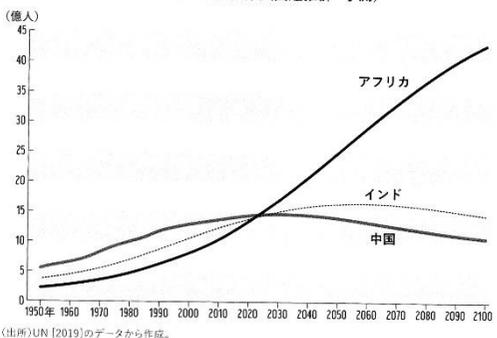
## 世界人口の予測とアフリカ対策

荒野 喆也

人類が世界規模で経験して来た人口変遷は、各国各地域でそれぞれの形態をとってきていたため、一括して今後を予測するのは難しかった。例えば東アジアにおいても特異な現れ方をした。アジアは欧州に遅れて急速に人口を拡大させたが、東アジアではその後出生率が急減している。従ってこの間、東アジア諸国の人口増加率は欧州より激しく増減し、そのため短い期間で年齢構成が激変した。このことが、東アジア諸国に見られた長期にわたる二桁経済成長を後押ししたのである。そして日本が先行して苦しんでいる人口重圧が東アジア経済全体に襲い掛かろうとしており、日本の急速な人口減少とそれに伴う高齢化が、中国や韓国を襲うことになる。

一方、世界人口については、国連経済社会局人口部による中国、インド、アフリカの人口推計と予測値を示したのが二〇一九年の国連人口予測図である。これを比較してみるとアフリカの総人口は二〇二四年に中国を抜き、二〇二七年にインドを凌ぐことになる。と予測されている。二二〇〇年にかけて世界総人口は、一〇八億人に達するとされているが、増分の九五パーセントはアフリカ人であって、その結果、今世紀末には、人類の四割がアフリカ人に占められることになるという。二一世紀の世界人口に関する関心と懸念はいまや完全にアフリカに移っている。

図2-3 中国、インド、アフリカの人口動向(国連推計・予測)



しかしこれらの国連統計値の中での今後の予測値の活用に当たった問題は、北アフリカは別としても、アフリカのサブサハラ諸国については、信頼性が低いことである。それは、アフリカ独特の複婚制度ポリジニー(一夫多妻婚・一妻多夫婚・集団婚等)家族制度や激しいHIV/AIDS等の感染症問題等があり予測は難しい。今後ともこれらの精度向上が不可欠であり、アフリカの人口問題は地球全体の人口問題である。